

# NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎ



## ●2018 年度総会第 2 回理事会開催報告

10月16日(火)14時から、フォレスト仙台5階501会議室において、第2回理事会を理事10人(内書面議決書による出席1名)と監事2人の出席で開催しました。議決事項として、1.2019年度総会日程決定について提案し、全員異議なく議決されました。協議事項は、1.「みんなで考えよう介護保険!みやぎ県民フォーラム2018」開催について、2.地域包括支援センター実態調査についてでした。報告事項は、1.2018年度総会議事録、2.2018年度総会第1回理事会議事録、3.実務担当者会議、4.2018年度上半期活動計算書、5.「情報の公表」調査事業、6.地域密着型サービス外部評価事業、7.福祉サービス第三者評価事業、8.宮城県認証評価制度運營業務、9.介護保険制度政策立案チーム、10.苦情解決の第三者委員研修・情報交流会、11.各種協議会について確認されました。

## ●2018 年度第 3 回実務担当者会議報告

9月14日(木)16時から17時まで、フォレスト仙台2階第6会議室において、14人が出席し開催しました。情報交流では、宮城県が宮城県内に事業者登録のある介護事業所に対し実施した、平成29年度「介護人材に関する調査」調査結果報告書の概要について情報提供後、意見交換を行いました。介護人材不足や確保難が深刻化する中、実務担当者からは、「通所と訪問の介護職員を募集し、通所は欠員が埋まったが、訪問は入職者がなかった。他より時給が低いので、今後時給を上げて募集するか検討中である。介護業界では人材の取り合いとなっているのが実情だ」「外国人労働者の雇用については、生活習慣や言葉の面で対応が難しい。介護業界の人材不足は賃金が上がらないと解決しないのではないか」など介護現場における人材確保の困難さ、介護保険制度改定による事業所運営の不安の声が多く出されました。

～ 事務局から ～

年末年始のお休みは

2018年12月29日(土)から

2019年1月3日(木)までです。



## 介護・福祉ネットワークみやぎの基本理念

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。私たちは知識と力を合わせ、良質な介護・福祉サービス提供と健全な事業運営のために、いっそうの研修にはげむとともに、情報を共有し、ネットワークをひろげます。もって子どもから大人まですべての人の人権が尊重されるまちづくりと、地域住民の福祉向上に資することを目的とします。

### 介護・福祉ネットワークみやぎ参加団体

宮城県生活協同組合連合会・みやぎ生活協同組合・生活協同組合あいコープみやぎ・松島医療生活協同組合・みやぎ県南医療生活協同組合・JA宮城中央会・公益財団法人宮城厚生協会・宮城県高齢者生活協同組合・社会福祉法人仙台ビーナス会・社会福祉法人こーぶ福祉会・社会福祉法人宮城厚生福祉会・特定非営利活動法人ゆうあんどあい・特定非営利活動法人WACまごころサービスみやぎ・特定非営利活動法人ひまわり・特定非営利活動法人ほっとあい・特定非営利活動法人グループゆう・宮城県民主医療機関連合会・宮城県労働者福祉協議会・宮城県医連事業協同組合・社会福祉法人みんなの輪・企業組合労協センター事業団東北事業本部・株式会社全労済ウィック・合同会社ワイズ

### ●2018 年度第 3 回実務担当者会議拡大研修会開催報告

9月13日(木)13時30分からフォレスト仙台4階4A会議室において、実務担当者、調査員等67人の参加で開催しました。

介護事業所において利用者へより良い支援を行うためには、利用者とのコミュニケーション及び職場内の協力・協調が必要不可欠となります。そのためには、介護従事者はまず、自分自身を知り、相手を理解した上で、人間関係を円滑にすることが求められます。

研修は、東北コミュニケーション研究所の高橋利夫さんを講師に迎え「人間関係とコミュニケーション～人間関係を良くするために～」と題し、「エニアグラム」を使い、演習を通して多様な価値観を理解し、より豊かな意思疎通の図られた対人関係を作り上げて行くためのヒントが得られることを目的に開催されました。エニアグラムとは、人間の性格を9種類に分類した性格分類学です。9つの先天的気質を反映させた性格タイプを知ること、自己理解と他者理解を深めるためのツールとして大変有効なものです。また、日常生活の中に現れる無意識の反応・感覚・考え方・行動など、自分の特性を理解する目的として取り入れられています。9つのタイプを理解し自分自身を知ることにより、「どうして私は」と感じていたことを、理解できるようにするための方法が分かり、自己成長につながる。自分自身を理解し、受け入れる事ができれば、まわりの人たちへの理解も深まり、人間関係の改善へと結びつくとご教示いただきました。

演習は、タイプごとにグループを作りワークショップ形式で行われました。グループディスカッションを通して自己理解を深めることができ、各グループの発表により、他のタイプの理解も深めることができました。

この研修会を通じて、自己の成長と豊かな人間関係を育む事の重要性を認識することができました。研修会で得た、気づきと学びを今後、家庭、仕事、地域へ活かしていきたいと強く感じました。



講師の  
東北コミュニケーション研究所  
高橋利夫さん



研修会の様子  
毎回笑いが絶えません



### ●2018 年度第 1 回介護保険制度政策立案チーム開催報告

9月21日(金)15時から17時まで、介護・福祉ネットみやぎ事務所において内館理事長を座長に8人の出席で開催しました。

協議事項として、今年度の政策立案チームの活動の視点や課題を協議しました。具体的な介護福祉施策への運動として①地域包括ケアシステムを推進するうえで、中核的な役割を担う地域包括支援センターの実態調査並びに現状把握のための場の設定を行うことが確認されました。また、②介護予防・日常生活支援総合事業について進捗状況の情報収集及び課題を整理すること。③介護・福祉ネットみやぎとして、介護人材の確保、医療と介護の連携について課題として捉えていることについても確認しました。

## ●2018年度第1回「情報の公表」調査事業推進委員会報告

10月26日（金）13時から14時30分までフォレスト仙台5階介護・福祉ネットみやぎ事務所において、8人の出席で開催しました。委員会は、情報の公表調査事業の適正な推進を確保するために設置されています。2018年度上半期活動計算書や情報の公表に関わる各委員会、平成30年度みやぎ介護人材を育む取組宣言認証評価制度や当法人会員団体の運営する地域包括支援センターへのアンケート結果及び懇談会内容などについて報告をしました。また、地域の実情や今後の課題などについて意見交換し有意義な会議になりました。

## ●2018年度宮城県地域密着型サービス外部評価調査員フォローアップ研修報告

9月6日（木）10時から12時まで宮城県庁2階講堂において、介護・福祉ネットみやぎの調査員34人、一万人市民委員会の調査員26人、合計60人の参加で開催されました。

研修では、NPO法人いわての保健福祉支援研究会副理事長の富手正義さんが「サービス評価の現状と動向」「評価項目の内容の理解」「対話技術の向上と、評価票の記入について」と題して講義を行いました。

富手正義さんは、外部評価調査員としても調査活動を行っており、「事業者が外部評価を通して事業所全体のレベルアップにつなげるためには自己評価のあり方が影響する。」と考えてきました。そこで、事業所が自己評価を実施する前に、職員一人ひとりに「職員個別評価票」に記入いただき、回収し集計を行いました。その後、この職員個別評価の分析データ及びコメントを事業所に還元し、自事業所の強み・弱みを把握してから自己評価を提出いただきました。外部評価の際にこれらのデータを基に事業所と意見交換した結果、事業所自らが質の向上のための改善点の「気づき」の機会につながったと説明されました。また、外部評価結果の記入は、「感想や所感ではなく、客観的に具体的な事実を記入した方がよい。」とご教示いただき、今後の調査活動に役立つ講話でした。



NPO法人いわての保健福祉支援研究会  
副理事長の富手正義さん

13時から16時30分まで同会場において、市町村の担当者・事業者が加わり、平成30年度宮城県地域密着型サービス評価推進研修会が開催されました。富手正義さんから「認知症の人のより良い暮らしをともに支えるために」と題して、自己評価の進め方や留意点、外部評価の意義についてご教示いただきました。次に、事業所と各評価機関の外部評価への取り組みについて発表が行われました。介護・福祉ネットみやぎは、当法人の基本理念・方針・調査員倫理規程に基づき外部評価事業を行い、調査員の知識を深め、資質の向上を目指している研修内容について報告しました。最後に市町村の担当者・事業者・評価調査員約5～7人が1グループになり、食事や外出支援において工夫していることや改善出来ることなどについて話し合い意見交換しました。



研修会の様子

## ●2018年度第1回外部評価調査員研修報告

9月13日（木）10時30分から16時までフォレスト仙台5階第501会議室において、調査員35人の参加で開催しました。午前の部では、外部評価の手順と流れ、調査開始時マニュアルなどについて確認しました。

次に、入間田範子副理事長から2017年度外部評価利用者家族等アンケート集計結果や相談苦情、平成30年度介護保険制度改正（グループホーム）内容や外部評価報告書の書き方のポイントなどについて説明があり情報共有しました。午後は、第3回実務担当者会議拡大学習と合同研修とし、対人関係をより良くするための方法について学びました。（詳細はP.2参照）

●参加団体活動紹介報告

**特定非営利活動法人ほっとあい** (柴田郡大河原町)

「高齢の方も、障がいのある方も、子ども達も、誰もが人間としての尊厳と、生きる意欲を持ち続け、自立して自分らしく安心して暮らしていくことの出来る地域づくりと、生きがいのある長寿社会の建設に協力すること」を目的として発足したほっとあいは、その名称に込められた「ほっとする」「あったかい」「助け合い」「愛」という思いと共に、新しい地域福祉の担い手として活動して20年になりました。

ほっとあいが提供する介護サービスには、「通所介護」「訪問介護」「居宅介護支援」「自主事業」の4つの部門があり、通所介護は、壁画の作成・健康の維持につながる体操・レクリエーション活動等を行っており、また手作り&作りたての昼食も大変好評です。訪問介護は、スタッフの高齢化・人員不足の中でも、チームワークを大切に一人一人寄り添った介護に努めています。居宅介護支援は、スタッフ体制を増やし「特定事業所加算Ⅲ」を算定し、より質の高いサービスの提供を目指しています。自主事業は、困ったときはお互い様の住民参加型支え合い活動を行っております。対象者は高齢者とは限りません。地域に新たな助け合いグループが出来るように支援も行っています。

誰にとっても「二度とない人生」です。自分で出来ること、家族で出来ること、隣近所で助け合えること(地区)、ほっとあいのような助け合いグループで、そしてプロの介護や支援を必要とする方々には介護保険事業で、各々役割を分担していくことが大切だと思っています。ほっとあいはこれからも地域の安心安全の担い手として活動を継続していきたいと思っています。

(特定非営利活動法人ほっとあい 理事長 坂本 一)



楽しく体操(通所介護)



みんなで料理(自主事業)

**利用者も、事業者も、働く人も、  
大事にする介護保険を!**

**みんなで考えよう介護保険! みやぎ県民フォーラム 2018**

日時

2018年  
**12月15日 土**

午後1時~4時30分(開場12時30分)

会場

**宮城県民会館 601 会議室**

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-3-7  
(代)TEL:022-225-8641

**参加費無料** どなたでも参加できます。事前申込み不要です。

主催/みんなで考えよう介護保険!  
みやぎ県民フォーラム2018実行委員会

〈事務局〉TEL022-388-9968  
宮城厚生福祉会本部(仙台市宮城野区田子字富里153番)

**プログラム**

■第1部 講演



「介護保険はどこに向かうのか?!」  
~社会保障改革と介護保険の今後~

講師 **芝田 英昭氏**  
(立教大学 コミュニティ福祉学部教授)

●講師紹介● 1958年福井県生まれ。金沢大学大学院人間社会環境研究科博士後期課程単位取得。福井県職員、西日本短期大学、大阪千代田短期大学、立命館大学を経て2009年より現職。

■第2部 シンポジウム

介護保険の現状と課題、改善方向を探る

コーディネーター

畑山みさ子さん(宮城学院女子大学名誉教授)

シンポジスト

折腹実己子さん(特別養護老人ホームハートケア鶴ヶ谷施設長)

千葉由美さん(認知症のひと家族の会宮城県支部世話人)

鈴木千絵さん(宮城県医労連ヘルパー介護労働組合執行委員長)

菅谷洋子さん(東北文化学園大学准教授)